

令和 6 年 9 月 30 日現在

機関番号：13401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K02167

研究課題名（和文）省察的实践者としての教師の力量形成と専門職学習コミュニティに関する実践研究

研究課題名（英文）A study on development of teachers as reflective practitioner and professional learning communities

研究代表者

柳澤 昌一（YANAGISAWA, SHOICHI）

福井大学・学術研究院教育・人文社会系部門（教員養成）・教授

研究者番号：70191153

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では省察的实践者としての教師の力量形成とそれを支える専門職学習コミュニティの編成をめくり、一方でその理論的基盤であるドナルド・A・ショーン（省察的实践）、E.ウエンガー（実践コミュニティ）の主著の再検討を通してその理論的フレームの検討およびその再構成への取り組みを進めるとともに、他方日本および諸外国において進められている学校・教師教育・教員研修の改革の展開に関わり、その展開過程の省察的事例研究・比較検討を組織的に進めることを通し、省察的实践者の力量の構成とその長期的な発展過程およびそれを支える専門職学習コミュニティの編成と支援組織機構の多重構成を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

変動が加速化する状況の中、伝統的な伝達中心の学習から協働探究を通じた主体的協働的な学びへの転換が求められているが、その実現は教師自身が協働探究とそれを支える実践力を培っていけるかどうか、教師の実践的力量形成にかかっている。しかしこうした力量は旧来の伝達型研修で形成ことは不可能であり、協働探究的な教師の学びの持続的な展開とそれを支える学習コミュニティの実現が改革実現の鍵となる。本研究はこの喫緊の課題をめくり、理論的なフレームの発展的再構成と実践過程に即した内在的比較事例研究を通して、教師の実践的力量形成とそれを支える専門職学習コミュニティ形成のための組織的な展望をひらくものである。

研究成果の概要（英文）：This study focuses on the development of teacher competence as reflective practitioners and the formation of a professional learning community to support this, while also focusing on the theoretical foundations of Donald A. Schon (reflective practice) and E. Wenger (communities of practice). Through a reexamination of the main works of "Community", we will examine its theoretical framework and work to reconstruct it, and at the same time, we will be involved in the development of reforms in schools, teacher education, and teacher training that are underway in Japan and other countries. Through the systematic progress of reflective case studies and comparative studies of the development process, we will study the composition of the abilities of reflective practitioners, their long-term development process, and the formation and support organizational structure of professional learning communities that support it.

研究分野：教師教育・学習過程研究・組織学習研究

キーワード：教師教育 専門職教育 省察的实践 専門職学習コミュニティ 実践コミュニティ 分散型コミュニティ 省察的機構

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

21世紀の教育実現の鍵となる省察的実践者としての教師の力量形成そのコミュニティ

不確実性・流動性が拡大する世界において主体的に生きる力を培う。21世紀の教育課題実現のために変化する状況の中で思考し実践する省察的実践者としての教師の力量が求められ、それを支える教師教育の転換が必要となることは教育改革をめぐる研究そして教師教育研究の中で共有されてきている。(Clandinin,2019; Schleicher, 2012 ; World Bank,2013a)

しかし、そうした省察的実践者としての教師の力量は、実際の実践と省察・研究の発展的な積み重ねを要するために、従来の大学における養成・研修でも、また伝統的な学校での取組の中でも実現することが難しい。こうした課題と関わって、1980年代後半以降、アメリカにおいては大学と学校とのパートナーシップによって専門職としての教師の力量を形成する学校(Professional Development School)を実現しようとする取組が進められてきた(Darling-Hammond,1994)。この中から、さらに教師の学習の持続的な展開に焦点を当てる専門職学習コミュニティ(Professional Learning Communities)という概念が提起され、2000年代以降展開を見せるに至っている(Myers, 1996; Hord,1997; DuFour & Eaker, 1998)。しかしアメリカにおいてはその後アカウンタビリティ、テストの点数による教師と学校の競争的な淘汰を含む政策のもと専門職学習コミュニティの企図もテスト対策強化の方策に矮小化される状況も生まれる。こうした政策に伴う公教育の混乱と教員組織の不安定化の中で、学校における教師の協働的な学習文化の育成を中心に据える専門職学習コミュニティ形成への取り組みが改めて重要なテーマとして再定位されている。カナダ・オンタリオ州、トロントと拠点とするマイケル・フラン、アンディ・ハーグリーブスらの実践と研究は、そうした方向でのもっとも重要な提起として受け止められている。(Fullan & Hargreaves, 1991,2015)。OECD・世界銀行においても、フラン、ハーグリーブスらの提起を受けて、学校における教師の協働探究を実現していくことが力量形成において重要となることを確認し、実例としてカナダ・オンタリオ州と日本の授業研究を挙げている。(Schleicher, 2012 ; World Bank,2013a)

日本における校内研修と授業研究の現状

世界的な改革提言の中で例示されている日本の校内研修と授業研究であるが、大正期の新教育運動の中で師範学校附属小学校をはじめとする学校において展開された授業づくりとその研究、ネットワークを基盤に戦後の授業研究運動等の積み重ねを経て、日本における教師文化の重要な要素となってきたが、学校・大学・行政と民間団体等、教師の研究を支えてきた諸組織の関係の希薄化や対立も加わり、その基盤が弱まり続けてきている。

オンタリオ州においては学校と大学・教育委員会が協力し、学校における教育改革のための教師の協働研究を支える取組が進められてきているが、日本においても改めて、授業研究の伝統を活かしつつ、学校・大学・教育委員会の共同によって学校における教師の学習を支える取組が重要となってきた。

2. 研究の目的

本研究では、専門職学習コミュニティをめぐる世界的な企図と理論の展開を明らかにしつつ、同時に日本における学校での教師の協働研究の歴史的な展開、および現在における学校での取組の現状と展開の長期的比較事例研究を進め、教育改革の要となる教師の力量形成とそれを支える専門職学習コミュニティの機能と編成の解明を目的とする。

①省察的実践とそのコミュニティの理論と長期事例研究アプローチの再検討

教師の実践的力をめぐるもっとも重要な概念である省察的実践をめぐるドナルド・A・ショーンの提起は、その著作において専門職の学習過程をめぐる克明な事例研究の積み重ねに基づいて展開されているが、従来のショーン研究、ショーンを踏まえた研究においてはそうした事例をめぐる分析が行われてこなかった。本研究においては省察的実践およびその力量形成をめぐる、ショーンの実例研究のアプローチそのものを検討し、そのアプローチを踏まえた専門職学習コミュニティの分析を進めていく。(Schön,1983,1987)

②教師の力量形成とそのコミュニティの機能をめぐる長期事例研究

上記の問題とも関わって、教師の力量形成とそれを支えるコミュニティの機能についても、コ

ンセプトの提起やそれを踏まえた数量的な把握に止まり、実際の事例、長期にわたる力量形成プロセスとそれを支えるコミュニティの機能について実際の事例に基づいた研究は展開されてきていない。本研究においては、福井大学教職大学院が関わる学校における長期的な教師の学習過程とそれを支えるコミュニティの機能をめぐる長期事例研究と世界的な取組の報告と比較して研究を進めていく。

③専門職学習コミュニティの形成過程の歴史的事例研究

専門職学習コミュニティの形成過程は、個々の教師の力量形成過程より長い、歴史的なプロセスを伴っている。本研究においては福井・富山・長野をはじめとする地域における学校の学習コミュニティ展開の歴史を跡づけていく。

④教育改革を担う教師の力量形成のための組織化への展望

上記の三重の事例研究およびその比較研究を通して、教師の実践的な力量形成を支える専門職学習コミュニティがどのようにして形成されていくのかを明らかにし、新たにそうしたコミュニティを実現し発展させていくためのアプローチを提起することを目的とする。

3. 研究の方法

①省察的実践とそのコミュニティをめぐる理論研究の深化

省察的実践をめぐるショーン、実践コミュニティをめぐる E.ウエンガーの理論的な企図は、それぞれの事例における実践過程の分析に基礎づけられており、そのプロセス把握の理解なしには理論的枠組みの把握も表層的・図式的なものに止まる。ショーン、ウエンガー双方の事例研究の再検討、および本研究における教師の省察的実践とそのコミュニティの事例研究を照らし合わせながら、省察的実践と実践コミュニティの理論における実践とその組織のプロセス把握のプロセス把握の枠組みの検討を進め、長期的な実践研究の理論的枠組みを発展させていく。

(Schön,1983,1987; Wenger,1998, 2002)

②教師の力量形成のプロセスとそれを支えるコミュニティの発展段階をめぐる事例研究

福井大学教職大学院では70校を超える学校における校内での教師の協働研究の展開を継続的に支える取組を進めている。それぞれの学校における中核教員の実践記録、および学校における協働の取組の記録が積み重ねられ、それらを交流し深める相互的研究過程も展開されている。本研究では、とりわけ長期的な取組を続けている学校と、新たに取組を始めている学校の双方について、教師の実践展開とコミュニティのサイクルを省察的実践と実践コミュニティの理論的なフレームと照らしながら比較検討していくことを通して、教師の実践力形成の長期サイクルとそれを支えるコミュニティのプロセス・フレームを構築していく。

③専門職学習コミュニティの歴史的な発展過程の分析

現在の日本における学校文化としての校内研修とそのコミュニティは、戦前・戦後における校内研修・授業研究の企図とその積み重ねの上に成り立っている。教師の力量形成とそれを支えるコミュニティをめぐるのは稲垣忠彦らの歴史研究(1988,1993)があるが本研究においては省察的実践と実践コミュニティのフレームからこうした取組の超長期的な発展過程を明らかにし、教育改革を支える教師の実践コミュニティの長期的展開への展望をひらいていく。

④教育改革と教師教育改革への実践研究に基づく理論的展望

OECD・世界銀行等の「教員政策」において、教師の力量形成とそのため学校の学習コミュニティの重要性は指摘されているが、それをどのように培い発展させていくか、形成プロセスの理解とデザインが欠落しているために、現実にはそうした提起は関係諸国の政策において機能していない。本研究においては、①②③の理論的・実践的なプロセス研究を踏まえ、実際に各国の学校において教師の学び合うコミュニティを形成していくための組織とプロセスを提起していく。

4. 研究成果

本研究の4つの連動するアプローチの展開を通して、次の4つの新たな、そして教師の実践的な力量形成とその基盤となる専門職学習コミュニティを培っていく上で不可欠なアプローチ・マネジメントの視点が明らかになってきた。

①教師の実践的な力量形成の現実のプロセス・サイクルとそれを支える専門職学習コミュニティの漸成プロセスにおける省察的なアイデンティティの形成という困難な課題

- ②コミュニティ形成を支えるコーディネーターの力量形成問題とコーディネーター・コミュニティ
- ③多重の専門職学習コミュニティを支える省察的機構のデザインとその担い手の形成およびコミュニティ
- ④分散型コミュニティの多重多系マネジメントという課題

以下にそれぞれのポイントを要約的に示す。

①教師の実践的力量的形成の現実のプロセス・サイクルとそれを支える専門職学習コミュニティの漸成プロセス：鍵としての世代のサイクル

学習者中心の、不確定状況の中での協働探究としての学びを支えるファシリテーター・コーディネーターとしての教師の役割は、従来の教授者・伝達者、前もって与えられた知識を分かりやすく教えるという従来の役割とは根本的に異なりその力量形成過程においては、教師自身の学習観の転換と専門職アイデンティティの省察的な転換が伴わざるを得ない。その困難な過程は、従来型の「伝達」研修での課題提起で実現することはありえない。実際の実践を通じた新たな学びへの挑戦と試行錯誤を促し持続的に支える、専門職としての学習コミュニティ（PLC）の形成が不可欠となる。

②コミュニティ形成を支えるコーディネーターの力量形成問題とコーディネーター・コミュニティ

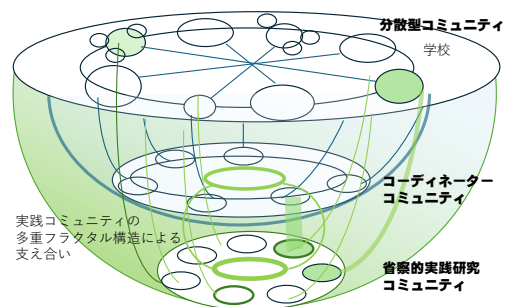
そのPLCをどのようにして培っていくかをめぐっては、これまでE.ウエンガーらの実践コミュニティの発展段階をめぐるコーディネーターの役割を析出した諸研究がもっとも重要な拠り所となってきた。しかし、ウエンガーらの研究においては、そのコーディネーター自身の力量形成という課題については、そのことの重要性とそのための構成が意識されてはいても、その実際のプロセスとそれを支える編成について描き出されるには到っていない。本研究においては、コーディネーターの力量形成を支えるコーディネーター・コミュニティの働きとそのプロセスについて、それらが当のPLCの編成・形成過程とフラクタル構造を持つことを、複数の実践事例を通して明らかにした。（NITS・福井大学連合教職大学院における学校支援コーディネーターのコミュニティ）

③多重の専門職学習コミュニティを支える省察的機構のデザインとその担い手の形成およびコミュニティ

コーディネーターとそのコミュニティをめぐる形成をめぐる視点と把握は、それらを支える機構の担い手の学習過程にも対応するものとなる。多重多層の学習コミュニティを支える省察的機構という視点・展望とそのための新たな組織マネジメントという視点が要請されることとなる。

④分散型コミュニティの多重多系マネジメントという課題

コミュニティとコミュニティ相互のネットワーク、そしてそれらを支えるコーディネーター・コミュニティ、さらにそうしたコミュニティの輻輳とコーディネーションの営みの展開を支え持続的基盤を構築するための省察的機構としての教育行政・大学の機能の転換・高度化、そこにおける多重多系マネジメントへの挑戦が、学校改革の実現にとって不可欠の要件となる。現状としては、行政・大学は、改革の方向性の提起・予算確保・事後



の外部からのアセスメント等の役割を果たすに止まり、改革の実際にプロセスと編成についてはブラックボックス化されたままに止まっている。実際の形成プロセスとはかけ離れた短期的成果とそれに関わる計量的なデータが追究され、結果としてこれらの組織の働きは、改革の持続的プロセスを混乱させ持続的展開を阻止する働きすら伴っている。教育改革を実際に展開して

いく上で、実践の場における展開を長期的に支える多重多系の相互支援とそのコーディネーション・マネジメントの高度化が不可欠となる。本研究を通して明らかにされた教師の実践力と専門職学習コミュニティの現実的プロセスとそれを支える多重の相互コーディネーション編成、およびそれらを多重の編成態としてコーディネーションし、さらにその形成と持続を支えるマネジメントの機構をめぐる展望は、これまでの、外部からの課題提起とアセスメントに終始し、結果として失敗をかさねてきた教育改革の現状を打開するための、重要な視点・アプローチとなる。

福井大学教職大学院では、こうした視点に立ち、教育改革を支援する総合教職開発本部を組織し、福井県内外の学校・教育行政のネットワークの支援を進めるとともに、教職員支援機構における教員研修改革・協働探究型の研修とそのネットワークづくりの取り組みへの参画、エジプトにおける学習者中心の学校づくりのプロジェクトへの協力等、PLC・多重多系コーディネーションとその省察的機構編成という新たなコンセプトに立った教育改革の取り組みを進めつつある。

これら複数の改革実践をめぐる内在的な長期事例研究および比較事例研究・歴史的事例研究の積み重ねを通して、公教育改革の多重展開を解明し、発展的に支えていく視点・アプローチ・組織・マネジメントを開発していくことが、継続的・組織的な研究と実践の課題となる。

[参考文献]

- Clandinin, D. J., Hsu, J. (2017). *The SAGE Handbook of Research on Teacher Education*.
Darling-Hammond, L. (1994). *Professional development schools: Schools for developing a profession*. Teachers College Press.
DuFour, R., & Eaker, R. (1998). *Professional learning communities at work: Best practices for enhancing student achievement*. Bloomington, IN: National Education Service.
Fullan, M. G., & Hargreaves, A. (1991). *What's worth fighting for? Working together for your school*.
Moran, M., & Rein, M., & Goodin, R. E. (2006). *The Oxford handbook of public policy* (Vol. 6). Oxford University Press.
Hargreaves, A. (2003). *Teaching in the knowledge society: Education in the age of insecurity*. Teachers College Press. [木村優・篠原岳司・秋田喜代美訳『知識社会の学校と教師』金子書店, 2002].
Hargreaves, A., & Fullan, M. (2015). *Professional capital: Transforming teaching in every school*. Teachers College Press.
Hord, S. M. (1997). *Professional learning communities: Communities of continuous inquiry and improvement*.
Myers, C. B. (1996). Beyond the PDS: Schools as Professional Learning Communities. A Proposal Based on an Analysis of PDS Efforts of the 1990's.
OECD. (2018). *The future of education and skills: Education 2030*. OECD.
Schleicher, A. (2012). *Preparing teachers and developing school leaders for the 21st century: Lessons from around the world*. OECD Publishing.
Schön, D.A. (1983). *The Reflective Practitioner: Basic Books*. [佐藤学・秋田喜代美訳『専門家の智慧』ゆみ出版, 2001. 柳沢昌一・三輪建二監訳『省察的実践とは何か』鳳書房, 2007].
—. (1987). *Educating the Reflective Practitioner*. Jossey-Bass Inc. [柳沢昌一・村田晶子監訳『省察的実践者の教育』鳳書房, 2017].
Wenger, E. (1998). *Communities of Practice*. Cambridge University Press.
Wenger, E., et al. (2002). *Cultivating communities of practice: A guide to managing knowledge*. [桜井祐子訳『コミュニティ・オブ・プラクティス』翔泳社, 2002].
World Bank. (2013a). What matters most for teacher policies: A framework paper (Systems Approach for Better Education Results Working Paper Series No. 4). World Bank.
—. (2013b). SABER-Workforce Development: Example of Benchmarking Rubrics for Topic-Level Data. World Bank.
—. (2013c). SABER-TEACHERS SECTION 6. PROFESSIONAL DEVELOPMENT. World Bank.
—. (2020). SABER TEACHERS OUTCOMES <http://saber.worldbank.org/index.cfm?indx=8&pd=1&sub=0>
稲垣忠彦・寺崎昌男・松平信久. (1988). 『教師のライフコース: 昭和史を教師として生きて』. 東京大学出版会.
稲垣忠彦. (1993). 教師の教育研究. 日本の教師 20. ぎょうせい.
柳沢昌一. (2015). 省察的実践者としての教師の協働探究を支える: 学校拠点の専門職学習コミュニティとそれを支える省察的機構への展望. 臨床教育学研究 3.
—. (2021). 教育改革と省察的実践のコミュニティへの企図. 教育学研究, 88(1).
—. (2023). 学習観の転換と新たな教師の学びの実現のために: 専門職としての省察的実践とそのコミュニティ, 日本教職大学院協会年報.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 柳沢昌一	4. 巻 14巻
2. 論文標題 学習観の転換と新たな教師の学びの実現のために：専門職としての省察的实践とそのコミュニティ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本教職大学院協会年報	6. 最初と最後の頁 57-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 柳沢昌一
2. 発表標題 学習観の転換と新たな教師の学びの実現のために：専門職としての省察的实践とそのコミュニティ
3. 学会等名 日本教職大学院協会 研究大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 柳沢 昌一
2. 発表標題 教職大学院におけるカリキュラム改革・カリキュラムマネジメントの現状と課題
3. 学会等名 日本教職大学院協会 研究大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------